矛盾

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、
楚の国の人で、盾と矛とを売る者がいた。（その人が）盾をほめて言うことには、
「吾が盾の堅きこと、①能く陥すもの莫きなり。」と。
私の盾の堅いことといったら、
又、其の矛を誉めて曰はく、
「吾が矛の利なること、物に於いて②陥さざる無きなり。」と。
私の矛の鋭い（鋭利な）ことといったら、物で突き通せないものはない、と。
或るひと曰はく、
「③子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如。」と。
④其の人、応ふること能はざるなり。
答えることができなかった。

（『韓非子』）

故事成語

昔の出来事(故事)がもとになってできた言葉を**故事成語**という。故事成語の多くは、中国の古典に記された話がもとになっている。本文は『**韓非子**』という書物に収められている話である。

（その他の故事成語）

・**蛇足**
意味 あっても益がない、余計なもの。
由来 ある人々が、蛇を先に描き上げた者が酒を飲めるという競争をした。最初に蛇を描いた者が得意げに蛇に足まで描き入れたところ、蛇にない足を描いたということで酒をもらい損ねたというたとえ話から。（『戦国策』より）

・**四面楚歌**
意味 周囲を敵に囲まれ、孤立すること。
由来 楚の項羽が漢の劉邦の軍に包囲されたとき、夜、四方の漢軍から楚の歌が聞こえた。項羽は驚き、既に楚の人々が漢に降伏したのだと思い嘆いたという故事から。（『史記』より）

・**推敲**
意味 詩や文章の表現を何度も練り直すこと。
由来 唐の詩人・賈島が「僧推月下門」という句の「推す」を「敲く」に改めるべきか悩んでいたところ、都の長官である韓愈の行列にぶつかってしまった。わけを話すと、韓愈は「敲く」がよいと助言したという故事から。（『唐詩紀事』より）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「能く陥すもの莫きなり」の意味を選びなさい。

ア (これを)突き通せるものはない
イ (これを)突き通せないものはない
ウ (これを)あまり突き通すものはない
エ (これを)あまり突き通さないものはない

[　　]

(2) ――線②「陥さざる無きなり」と同じ意味を表すものを選びなさい。

ア 何も突き通せない
イ 何でも突き通せる
ウ 何かは突き通せるだろう

[　　]

(3) ――線③「子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如」の意味を選びなさい。

ア 子どもの矛で子どもの盾を突き通してはならない
イ 子どもの矛で子どもの盾を突き通すとどうなるのか
ウ あなたの矛であなたの盾を突き通してはならない
エ あなたの矛であなたの盾を突き通すとどうなるのか

[　　]

(4) ――線④「其の人」と同じ人物を指す本文中の言葉を次から選びなさい。

ア 盾と矛とを鬻ぐ者　**イ** 或るひと

[　　]

(5) 次の**A**～**D**の故事成語の意味を、それぞれ選びなさい。

A 矛盾 [　　]　**B** 蛇足 [　　]
C 四面楚歌 [　　]　**D** 推敲 [　　]

ア 周囲を敵に囲まれ、孤立すること。
イ 詩や文章の表現を何度も練り直すこと。
ウ あっても益がない、余計なもの。
エ つじつまが合わないこと。